

第1学年1組 算数科学習指導案

平成27年 7月16日(木) 2校時

指導者 教諭 井上 竜一

場 所 1年教室

1 本研究授業の提案

求差の場合について、減法の意味や、式の表し方を理解させるための手だてとして、以下の二つを提案する。

- (1) 1対1対応させて残りを取るという動作を、絵を動かしながら視覚的に捉えさせることで、「差」に注目させる。
- (2) 説明する型を提示し、それに従ってお話をしながらブロック操作をさせることで、求差の意味を理解させる。

2 本研究の授業技術課題

- (1) 児童が理解しやすい方法で、資料を提示する。
- (2) 見通しを持たせることができる、簡潔な指示や発問を工夫する。

3 本研究授業で取り入れた言語活動

求差を求める算数ブロックの操作をしながら考えさせる過程で、説明の型を示して一人一人が声に出してお話をする活動を通して、求差における減法の意味を理解させる。

4 単元名 のこりはいくつ ちがいはいくつ

5 単元の目標

減法の意味と被減数が10以内の減法の計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

6 指導計画(本時 6/7時間)

小単元	時	主 な 学 習 活 動
1 のこりはいくつ	①	求残の場合についての、減法の意味と式の表し方
2 ひくといくつ	②	被減数が10以内の減法計算 求補の場合についての、減法の意味と式の表し方
	③	計算カードを使った、被減数が10以内の減法計算の練習
3 0のひきざん	④	0を含む減法の意味
4 ちがいはいくつ	⑤	求差の場合についての、減法の意味と式の表し方
	⑥	求差の場合についての、文章題解決を通じた減法の意味理解
5 もんだいづくり	⑦	問題づくりによる式の読みを通じた、減法の意味理解

7 本時の展開

(1) ねらい

求差の場合について、減法の意味を理解する。

(2) 指導過程

段階	学習活動	指導事項・留意点・評価
つかむ	1 1対1対応で比べる方法を知る。 - りんごが5こあります。みかんが3こあります。ちがいはなんこでしょうか。 - どうしたら分かりやすくなりますか。 - ちがいは2こです。	りんごとみかんのちがいを考えるには、並べ変えると分かりやすいことをイラストを動かして操作することで視覚的にとらえさせ、学習問題へとつなげる。その際、りんごとみかんをマッチングした分を取り去ることで、引き算の考え方へとつなげていきたい。

見通す	2 学習問題を知る。	
	あかぐみは8にんいます。しろぐみは5にんいます。ちがいはなんにんですか。	
考える	3 学習問題について、求差を求める。 ・ばらばらにプールに入っていますが、どうしたら分かりやすくなりますか。 ・算数ブロックを使って考えましょう。 ・ちがいは何人ですか→3人 ・隣の友達と並べた算数ブロックを見せ合い、お話をしながら動かしてみよう。	・1対1対応にするとよいことを黒板のイラストから視覚的に理解させる。 ・「ちがいは〇〇です」という話型を示すことで、お話づくりを支援する。 ・机間巡視で、答えが見つからない児童には個別に支援するようにする。
確かめる	4 算数ブロックを使って、みんなの前でお話ししてください。	・数名の児童に書画カメラを使って算数ブロックの操作を映し出し、説明させる。児童の思考を見取り、いくつかの型を提示させたい。
まとめる	5 立式する。 ・算数ブロックでのお話を式に表すと、 $8-5=3$ こたえ3にん となります。 ・どちらがどれだけ多いかを考えるときも、引き算を使います。 6 応用問題を解く。 ・教科書を出して、2の問題を考え、式と答えを書きましょう。	・ブロック操作の模範を教師が提示する。 ・求残、求補と同じように、求差も引き算を使って求めることができるということをつかませる。その際、「のこりは」「ちがいは」ということばを使って理解できるようにさせる。 <評価> 求差の場合について、減法の意味や式の表し方を理解している。

(3) 板書計画

ちがいはいくつ

ちがいは2こ

ちが い

あかぐみは8にんいます。しろぐみは5にんいます。ちがいはなんにんですか。

しき $8-5=3$

こたえ 3にん

5 5 ペえじ 2

しき $6-4=2$

こたえ 2ほん

(4) 本時の評価

具体的評価基準	求差の場合について、減法の意味を理解し、式に表すことができる。 (観察・ノート・発言)
Aと判断する姿	求差の場合について、算数ブロックを操作しながら友達に分かりやすく説明することができる。(観察・発言)
Cへの手だて	算数ブロックの動かし方を個別に支援し、求差の場合について、減法の意味を理解させる。

